

【鍋島賞（最優秀演題賞）】

田中 里奈子

名古屋大学医学系研究科医療薬学講座



研究課題、タイトル

Effect of a Rho-kinase inhibitor, fasudil, on spine density in the mPFC of mice carrying a mutation of the *Arhgap10* gene

コメント

名古屋大学医学系研究科医療薬学講座の田中里奈子と申します。2021年10月22日ー23日にオンラインで開催された第7回アジア神経精神薬理学会大会(7th Asian College of Neuropsychopharmacology; AsCNP 2021)で「Effect of a Rho-kinase inhibitor, fasudil, on spine density in the mPFC of mice carrying a mutation of the *Arhgap10* gene」という題でe-posterを発表させていただきました。統合失調症患者由来の遺伝子変異マウスを用いた統合失調症の新規治療薬開発にむけた研究成果を報告いたしました。この度は、JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP及び鍋島賞をいただき、大変光栄に思っております。このような賞をいただけたのは共同演者の先生方や研究室員のお力添えのおかげだと思います。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

今年のAsCNP 2021はシンガポールでの開催でしたが新型コロナウイルスの影響からオンライン開催となりました。私の参加したe-posterでは残念ながら質疑応答のような学会参加者の先生方とコミュニケーションをとる機会がありませんでした。しかし、このような社会情勢のなかでも、アジアの研究者に向けて自分の研究成果を発表させていただく機会を得られたことは大変幸運だと思っております。加えて、シンポジウムの拝聴を通じて様々な研究成果に触れることができ、大変刺激をいただきました。特に私は精神疾患におけるマイクログリアの寄与についてのセッションが興味深かったです。

今回いただいた賞を励みに、神経精神薬理学分野の発展に貢献できるようより一層精進いたします。これからもどうぞよろしく願いいたします。



澤頭 亮

北海道大学医学院・医学研究院・医学部医学科神経生理学教室

研究課題、タイトル

The oculomotor foraging task: a novel behavioral paradigm to evaluate multiple components of working memory

コメント

北海道大学医学研究院神経生理学教室に所属しております大学院博士課程4年の澤頭亮と申します。この度、第7回アジア神経精神薬理学会（AsCNP 2021）にて口頭発表させて頂き、その演題に対して JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2021を頂き大変光栄に思います。本学会は、コロナ禍のためフルバーチャルでの開催となりましたが、主催側のご尽力により大変スムーズに進行していった印象でした。また、リアルな学会場と同様に雑談ルーム(?)なるものが設けられており、参加者間のコミュニケーションを促進していたように思います。

私は、大学院入学後から作業記憶（ワーキングメモリ）のメカニズム解明を大きなテーマとし、行動薬理と電気生理の手法を用いて研究を進めて参りました。作業記憶は我々の日常生活に欠かせない認知機能の一つである一方、種々の精神神経疾患で障害されることが知られております。また、現存の検査バッテリーでは、作業記憶の複数のコンポーネントを効率的に定量化できていないという問題点がありました。今回発表させて頂いた内容は、単純な視覚探索課題を用いて、作業記憶の複数のコンポーネントを定量化できるという内容でした。座長を賜りましたGavin Dawe先生からは、私が新たに開発した採餌モデルに対して、interestingで気に入ったと熱いコメントを頂き嬉しい限りでした。本研究はまだ実験動物（サル）で予備実験を行なっている段階であり、ヒトへの臨床応用は達成できておりません。今回の受賞を励みに、これからの研究をさらに進めて参りたいと思います。最後になりましたが、日本神経精神薬理学会、アジア神経精神薬理学会、北海道大学医学研究院神経生理学教室、北海道大学医学研究院精神医学教室の先生方には改めて感謝申し上げます。



川畑 伊知郎

東北大学薬学研究科先進脳創薬講座

研究課題、タイトル

Impact of fatty acid-binding protein 3 and dopamine D2 receptors in Lewy body diseases

コメント

この度、2021年10月22日および23日に開催されました7th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacologyに参加させていただきました。本来であればシンガポールにおいて、アジアをはじめ世界各国から参加される精神神経薬理の第一線で活躍される先生方とお会いできることを楽しみにしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のためVirtual Congressでの参加となりました。私は、神経変性疾患や加齢により脳機能がどのように失われ、また予防可能なのか、特にレビー小体病に着目しその発症機序と治療法、診断技術の開発研究を進めております。今回の7th Congress of AsCNPでは、レビー小体病の原因タンパク質である α シヌクレインがどのように神経細胞に伝播し蓄積していくのか、その新たな分子機序について、脂肪酸結合タンパク質 fatty acid-binding protein 3と長鎖型ドパミンD2受容体依存的なタンパク質取込みを発表いたしました。会場での活発なディスカッションが難しい中、Virtual Congressならではの利点として、本来時差のある海外の先生方から気軽にメールで貴重なコメントをいただくことができました。また本大会では、私ども基礎研究者とは違った視線から、臨床研究分野の先生方のご講演をオンラインでじっくり拝聴することができ、臨床現場での問題点や必要とされている技術と治療薬をはじめ、治療開発研究の勉強と大変な励みとなりました。今回、JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2021を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。今後さらに、日本神経精神薬理学会の発展に貢献することができますよう研究を進め、レビー小体病を克服することで認知や運動機能、精神機能を失なうことなく予防・治療可能な健康脳社会の実現に尽力してまいります。



宮岡 辰典

大阪大学薬学部薬剤学分野

研究課題、タイトル

Overexpression of VIPR2 in neurons causes defects in dendritic growth and cognitive impairment

コメント

この度、2021年10月22日から23日に開催されました第7回アジア神経精神薬理学会（7th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology : AsCNP）に参加いたしました。本大会は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行のため、オンラインでの開催となりました。実際に現地で各国の研究者と交流できなかったことは残念でしたが、一方で、オンライン開催であったからこそ英語が拙い私でもチャット機能を用いて有意義なディスカッションを行うことができたと考えております。会期中には基礎・臨床の各領域における最新知見を勉強させていただきました。また、私は今回が初めての国際学会への参加であったため、最先端の研究を行っておられる諸先輩研究者方から多くの刺激を得ることができました。

今回、日本神経精神薬理学会よりJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2021を頂いたことを大変光栄に思っております。このような名誉ある賞を頂いたのも、日々研究をご指導いただいている先生方、共同研究者の皆様、学会を運営して下さった皆様のご指導、ご協力のおかげと感じております。この場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、神経精神薬理学領域の発展に貢献できるよう更に精進して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

末筆になりますが、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々に謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日でも早い事態の収束を心よりお祈り申し上げます。



古田島 浩子

東京都医学総合研究所依存性薬物プロジェクト

研究課題、タイトル

Prenatal exposure of GABA_A receptor inhibitor
picrotoxin causes ASD-like behaviors and aberrant gene
expression in mice

コメント

まず始めに、COVID-19の影響で学会開催に多大な影響が出る中、第7回アジア神経精神薬理学会（7th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology: AsCNP2021）を開催していただきありがとうございました。AsCNP2021を開催していただいた先生方ならびに関係者の皆様に心から感謝いたします。2021年10月22-23日にオンラインにて開催された本学会に参加し、ポスター発表をさせていただきました。また、JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2021を受賞することができ、大変光栄に思います。研究を遂行するにあたり、ご指導・ご助言いただいた先生方にこの場を借りて、厚く御礼申し上げます。

本学会の開催はオンラインでしたが、直感的に操作することができ、シンポジウムやポスター発表へのアクセスを円滑に行うことができました。私は自閉スペクトラム症（自閉症）の研究を行っているのですが、他疾患の研究も含めて聴講することができ大変勉強になりました。自閉症研究に関しては、特に脳画像研究の知見が興味深く、現在自身の研究に活かせないかと模索中です。これまでの対面式での学会と異なり、ポスター作成の際も閲覧しやすさや構成などもより伝わりやすいように工夫を行い、ポスタープレゼンテーションについて改めて考える機会にもなりました。

末筆になりますが、改めて本学会運営・開催にご尽力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。今回の受賞を励みに今後も研究活動に邁進していきたいと思っております。COVID-19の影響で世界情勢が大変ですが、みなさまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。今後どうぞよろしくお祈り申し上げます。



松本 純弥

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

研究課題、タイトル

Cortical structural mega-analysis across four major psychiatric disorders in 5432 individuals

コメント

この度、2020年10月22日、23日にオンライン開催された第7回アジア神経精神薬理学会（7th Congress of AsCNP: Asian College of Neuropsychopharmacology）での演題発表「Cortical structural mega-analysis across four major psychiatric disorders in 5432 individuals」に対して、JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2021を頂きました。

この研究は統合失調症、双極性障害、うつ病、自閉スペクトラム症の4大精神疾患について多施設からT1強調核磁気共鳴画像データを得て大脳皮質厚と大脳皮質面積を算出してメガ解析を実施したものです。日本の認知ゲノム共同研究機構（Cognitive Genetics Collaborative Research Organization: COCORO）により統合失調症では12施設23コホート、双極性障害では8施設10コホート、うつ病では7施設14コホート、自閉スペクトラム症では4施設8コホートから5432人の被験者データを解析した非常に大規模な多施設共同研究です。そのため、大変多くの皆様のご協力があって成り立っています。ご協力いただいている先生方に日々感謝をしながら解析を進めました。コロナ禍でオンライン開催の国内学会には既に何度かWeb参加しておりましたが、国際学会へのWeb参加は初めてでしたのでとても刺激になり勉強になりました。この場をお借りして共同研究者の皆様に深く感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



藤野 純也

東京医科歯科大学精神行動医科学

研究課題、タイトル

Role of the right anterior temporoparietal junction in cognitive function in autism spectrum disorder

コメント

2021年10月22日から23日に開催されました第7回アジア神経精神薬理学会大会（7th Asian College of Neuropsychopharmacology; AsCNP 2021）に参加させていただきました。今回、新型コロナウイルス感染症拡大のため、Virtual Congressとして開催されましたが、国内外からの参加者が非常に多く、神経精神薬理に関する最新の知見に数多くふれることができました。

私はこれまで、行動実験・複数のモダリティーのMRI・反復性経頭蓋磁気刺激法を組み合わせ、自閉スペクトラム症（ASD）の病態理解に取り組んで参りました。今回は、同疾患群の認知機能における右側頭頭頂接合部の役割に関しまして、研究結果を報告させていただきました。臨床家・研究者の方々から、今後の発展につながる貴重なコメントを多数いただき大変嬉しく思っております。

今回、JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2021を受賞させていただきましたことを大変光栄に思っております。日本神経精神薬理学会の先生方、所属機関・研究協力施設の先生方をはじめ、本当に多くの方々にご指導いただきましたことを、心より感謝申し上げます。神経精神薬理学分野の発展に貢献ができますよう精進して参りますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



佐久間 健二 藤田医科大学病院医学部精神神経科学講座

研究課題、タイトル

Efficacy, acceptability, tolerability, and safety of phosphodiesterase inhibitor for the treatment of major depressive disorder: a systematic review and meta-analyses

コメント

この度、2021年10月22日から23日にかけてシンガポールにて開催されました第7回アジア神経精神薬理学会大会 (7th Asian College of Neuropsychopharmacology; AsCNP 2021)に参加させていただきました。昨今の新型コロナウイルス蔓延の影響により、オンラインでの学会参加とはなってしまいましたが、どのセッションにおいても活発な議論が行われ、大変有意義な経験をさせていただきました。私は「Efficacy, acceptability, tolerability, and safety of phosphodiesterase inhibitor for the treatment of major depressive disorder: a systematic review and meta-analyses」というタイトルでポスター発表をさせていただき、日本神経精神薬理学会より JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2021 という大変栄誉な賞をいただきました。私にとっては、医学研究に関する初めての受賞であり、日頃の研究成果がこのような形で評価いただけたことに、大変有難く思っております。受賞にあたり、ご指導ご鞭撻を賜りました、岩田仲生先生、岸太郎先生をはじめ、共著者の先生方、学会関係者の皆様に、この場を借りまして、心より厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、更に日々の研究を進めて参ります。

また、2021年8月に日本神経精神薬理学会の統合失調症薬物治療ガイドライン英文版が Neuropsychopharmacology Reports に掲載されました。私は「Implementing Evidence-Based Practices for People with Schizophrenia in Japan」というタイトルで、本治療ガイドラインを広報すべく、シンポジストの1人として発表をさせていただきました。本治療ガイドラインは、多くの諸先輩方が、日本の医療の発展のために、多大な時間と労力をかけて、作成されたものです。私もガイドライン作成委員として微力ながら貢献ができますよう、引き続き精進して参りますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



岡崎 賢志

神戸大学医学部附属病院精神科神経科

研究課題、タイトル

Epigenetic clock analysis of blood samples from Japanese schizophrenia patients

コメント

このたび、2021年10月22日から23日に開催された7th Congress of the Asian College of Neuropsychopharmacology (AsCNP) 2021に参加させていただきました。今回はコロナ禍ということでオンラインでの開催となりましたが、開催に向けてご尽力いただいた関係者の皆様には改めて感謝申し上げます。

私はこれまで、DNAメチル化状態から生物学的年齢を推定するEpigenetic clock解析について、精神疾患をテーマとして研究を行ってきました。本発表では、日本人統合失調症患者の末梢血を用いた研究の結果を報告させていただきました。

今回、日本神経精神薬理学会よりJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2021を受賞させていただくこととなり、大変光栄に存じます。ご指導ご鞭撻を頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。神経精神薬理学分野の発展に貢献できますよう精進して参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



宮原 裕

宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野

研究課題、タイトル

Differential roles of 5-HT₃ and 5-HT₇ receptors in acute pruriceptive processing in mice

コメント

この度「Differential roles of 5-HT₃ and 5-HT₇ receptors in acute pruriceptive processing in mice」という題目でJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2021(Virtual Congress) をいただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに学会関係者の皆様に、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

私のThe Congress of the Asian College of Neuropsychopharmacologyへの参加は前回の福岡で執り行われた学会に続き、本学会が2回目になります。本来であれば、シンガポールでの開催予定でしたので、現地でのさまざまな研究者の皆様との交流を楽しみにしておりましたが、あいにくコロナ禍のためオンライン開催となりました。学会がオンライン開催になったことで、オンデマンドで講演やポスター発表を視聴できるなどの利点があり、現地に赴くことなく最先端の神経精神薬理学の学会に参加できたのは大変貴重な経験となりました。興味深く拝聴させていただいたのは精神疾患バイオロジーにおけるグリア細胞の関与についてのシンポジウムで、病態メカニズムの解明、創薬につながるであろう画期的な成果に大変刺激を受けました。

末尾ではございますが、本賞をいただくにあたって、ご懇篤なご指導ご鞭撻を賜りました宮崎大学医学部精神医学教室の石田康先生、西森利数先生、船橋英樹先生ならびに当教室のスタッフの皆様にご心から感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後の神経精神薬理学の発展に貢献できるよう精進して参ります。この度はまことにありがとうございました。

1日も早いコロナウイルス感染症の収束と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。